

国語復習プリント古文③（敬語・識別の復習）

1 傍線部の敬語の種類を答えなさい。

- ① 「いかなる所にか、この木はさぶらひけむ。」
- ② 徳大寺にもいかなる故か侍りけん。
- ③ 御乳母などをつかはしつゝありさまを聞こしめす。
- ④ かかる雨なればくちをしとなげかせ給ふ。
- ⑤ 惟喬の親王、例の狩しにおはします。
- ⑥ 「夜いたうふけぬれば、今宵過ぐさず御返り奏せむ。」

- ⑦ やがて、御簾のうちに入れたてまつり給ふ。
- ⑧ 大納言、三位中将、松君率て参り給へり。
- ⑨ かぐや姫、「もの知らぬこと、なのたまひそ。」とて、

- ⑩ 身をすてて、額をつき祈り申すほどに、
- ⑪ 人の心劣れりとは思ひはべらず。
- ⑫ （匂宮ハ）それよりぞ御馬にはたてまつりける。
- ⑬ 心づかひして、皇子をば止めたてまつりて、
- ⑭ 岩がくれの苔の上に並みゐて、かはらけまゐる。
- ⑮ 親王にむまの頭、大御酒まゐる。
- ⑯ （聖ガ光源氏ニ）加持などまゐるほど、
- ⑰ 「（宣耀殿ノ女御ニ）父大臣の教へ聞こえ給ひけることは、」
- ⑱ （中宮定子ハ）ものなど仰せられて、「我をば思ふや。」と問はせ給ふ

2 次の傍線部の敬語が、誰に対する敬意を表しているか答えなさい。

- ① かぐや姫かたちの世に似ずめでたきことを、帝聞こしめして、内侍中臣のふさこにのたまふ。
- ② 大将こそ、宮抱き奉りて、あなたへゐておはせ。
- ③ 上おはしますに、御覧じていみじうおどろかせ給ふ。
- ④ 惟喬の親王、例の狩しにおはします供に、右馬の頭なる翁、つかうまつれり。

- ⑤ 少将（俊寛ニ）「まことにさこそは、おぼしめされ候ふらめ。」

- ⑥ （帝ハ）一の宮を見奉らせ給ふにも、若宮の御恋しさのみ思ほし出でつつ、

- ⑦ （大納言ガ）御鷹の失せたる由を奏し給ふ時に、帝ものものたまはず。

3 次の傍線部を口語訳しなさい。

- ① 御簾の前にて人にを語りはべらむ。
- ② ただこの西おもてにしも、持仏据ゑ奉りて行ふ、尼なりけり。

- ③ まだ唐の御衣も奉りながらおはしますぞいみじき。
- ④ 心地もまことに苦しければ、物もつゆばかりまゐらず、
- ⑤ 「姫宮の御前の物は、例のやうにてはにくげにさぶらはむ。」

- ⑥ 帝、なほめでたく思しめさるること、せきとめがたし。
- ⑦ 「月ごろは、思ひたまふる事ありて、殿に伝へ申させ侍りしかば、」

- ⑧ また聞けば、侍従の大納言の御女なくなり給ひぬなり。
- ⑨ 「龍の頸の玉をえ取らざりしかばなむ、殿へもえ参らざりし。」

- ⑩ 「わが丈立ちならぶまで養ひたてまつりたる我が子を、なにびとか迎へきこえむ。」

④ 傍線部を文法的に説明しなさい。

① 戌の時も過ぎぬべし。

② 九重のうちに鳴かぬぞいとわろき。

③ あるいはおのが家にこもりぬ。あるいはおのが行かまほしき所へいぬ。

④ しのびたるけはひ、いともあはれなり。

⑤ ただ一人、ねぶたきを念じてさぶらふに、「丑四つ」と奏すなり。

⑥ この子いと大きになりぬれば、名を、御室戸齋部の秋田を呼びて、つけさす。

⑦ この吹く風はよき方の風なり。

⑧ 御送りして、とく往なむと思ふに、大御酒賜ひ、禄賜はむとて、遣はさざりけり。

⑨ 橋を八つわたせるによりてなむ、八橋といひける

⑩ 高砂の尾の上の桜咲きにけり外山のかすみたたずもあらなむ

⑪ まめまめしきものは、まさなかりなむ。

⑫ はつる暁まで門たたく音もせず、

⑬ などかうは泣かせ給ふぞ。

⑭ 老いらくの来むと知りせば門さしてなしと答へて会はざらましを

⑤ 傍線部の文法的説明を次のア～ウから選びなさい。

① 舎人が、寝たる足を狐に食はる。

② かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを

③ 人の才能は、文あきらかにして、聖の教を知れるを第一とす。

ア 受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形

イ 完了・存続の助動詞「り」の連体形

ウ 動詞の連体形活用語尾の一部

⑥ 傍線部の文法的説明を次のア～カから選びなさい。

① さは翁丸にこそはありけれ。

② 秋にはをさをさ劣るまじけれ。

③ 秋の野をにほはす萩は咲けれども見るしるしなし旅にしあれば

④ また、かねて思ひつるままの顔したる人こそなけれ。

⑤ めでたしと見る人の、心劣りせらるる本性見えんこそ口惜しかるべけれ

⑥ 見に行かまほしけれど、さらに道も覚えず。

ア 過去の助動詞「けり」の已然形

イ 形容詞の已然形活用語尾

ウ 推量の助動詞「べし」の已然形の一部

エ 打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部

オ 希望の助動詞「まほし」の已然形の一部

カ 四段動詞の已然形活用語尾＋完了の助動詞「り」の已然形（命令形）

⑦ 傍線部の文法的説明を次のア～エから選びなさい。

① いま一度おこせかし。

② 目のあたり珍かなりしことなり。

③ 書きけがしたりなどしたるあり。

④ しまがくれゆく舟をしぞ思ふ

ア サ変動詞「す」の連用形

イ 過去の助動詞「き」の連体形

ウ 強意の副助詞「し」

エ 強意の終助詞「かし」の一部

⑧ 傍線部の文法的説明を次のア～エから選びなさい。

① まことの神の助けにもあらむを、

② 風吹けば沖つ白波立田山夜半にや君が一人越ゆらむ

③ わが身のやんごとなからんにも、

④ いはんや劣れらん身にて、

ア 推量の助動詞「らむ」

イ 動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」

ウ 形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」

エ 完了（存続）の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」

① 8	① 7	① 6	① 5	⑭ ⑬ ⑫ ⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ① 4	⑨ ⑦ ⑤ ③ ① 3	⑦ ⑥ ⑤ ③ ① 2	⑰ ⑬ ⑨ ⑤ ① 1
□	□	□	□	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □	a a a □ □ □ □ □	a □ □ □ □ □
□	□	□	□				
②	②	②	②				□ □ □ □ □
□	□	□	□				b ⑭ ⑩ ⑥ ② □ □ □ □ □
□	□	□	□			□ □ □ □ □	
③	③	③	③			b b b ④ ② □ □ □ □ □	
□	□	□	□				
□	□	□	□		□ □ □ □ □		□ □ □ □ □
④	④	④			⑩ ⑧ ⑥ ④ ② □ □ □ □ □		⑱ ⑮ ⑪ ⑦ ③ a □ □ □ □ □
□	□	□					
□	□	□	⑤			□ □ □ □ □	□ □ □ □ □
		□					b ⑰ ⑫ ⑧ ④ □ □ □ □ □
		⑥		□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
		□					□ □ □ □ □
					□ □ □ □ □		

